

ゆれ、寺社などにしのびてこもりたるもおかし、

〔東海道名所記〕「いとおしき子には旅をさせよといふ事あり、萬事思ひしるものは、旅にまさる事なし、鄙の永路を行過るには、物うき事、うれしき事、はらのたつこと、おもしろき事、あはれなること、おそろしき事、あぶなき事、おかしき事、とりくさまく也、人の心も、こと葉つきも、國により所により、おのれくの生れつき、花車もあり、いやしきもあり、そのみならず、みちすがらには、海川、山、坂、橋、平地、石はら、沙原、ほそ道、あせ道、追分などとしてこれあり、道のたすけには、大雪に山ごし、大水に川ごし、ふかき川に渡し船のりかけに駄賃馬、あるいは歩にてゆく人のため、からしりの馬籠のり物、あるひは馬のなきときは、かち荷物のためすけもあり、しらぬ道には、あんない者あり、旅屋はたやの遠き所には、店屋の餅團子、茶屋の焼餅、其外在所により家によりて、國の名物酒さかな、煮賣、焼賣色々あり、一日路すぎて、暮がたには、はたごやの宿、泊々これあり、○下

遊覽

〔伊呂波字類抄伊呂波字〕遊覽

〔書言字考節用集九言辭〕遊覽又云

〔古今著聞集十四遊覽〕周覽之遊其興太多、春有萬樹之花、夏有百尺之泉、秋有千里之月、冬有數重之雪、各就勝地、彌添氣色者也、

〔肥前風土記藤津郡〕昔者日本武尊、巡幸之時、到於此津、日沒西山、御船泊之、明旦遊覽、繫船覽於大藤、

因曰藤津郡、

○按ズルニ、天皇ノ遊覽ノ爲ニ行幸アリシ事ハ、帝王部行幸篇ニ載セタリ、

〔懷風藻〕葛野王二首略○中

五言遊龍門山一首、